

補足資料

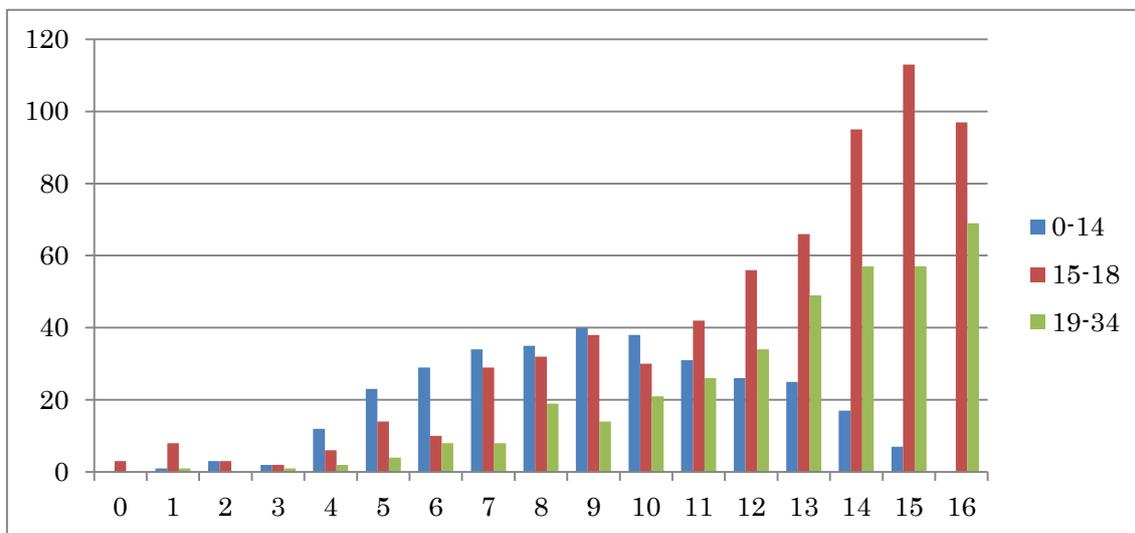


図1 ベラルーシの甲状腺がん有病率の経年推移(100 万人対)(原発事故時が0年)  
0 歳-14 歳、15 歳-18 歳 19 歳-34 歳

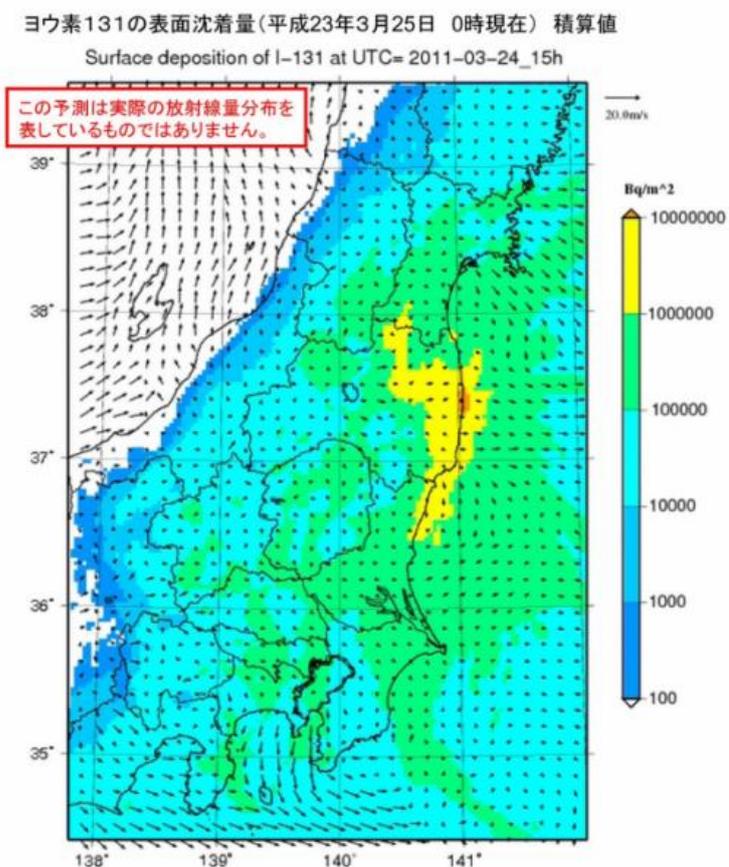


図2 放射性ヨウ素の地上の表面沈着量(積算)

図 2 は、文部科学省が福島原発事故から約 2 か月後の 2011 年 5 月 10 日に公表した世界版 SPEEDI (WSPEEDI) のデータです。図 2 から 2011 年 3 月 12 日～25 日 0 時(13 日分)までの放射性ヨウ素の地上の表面沈着量(積算)がわかります。茨城県北部地域での放射性ヨウ素による放射能汚染が大きいことがわかります。

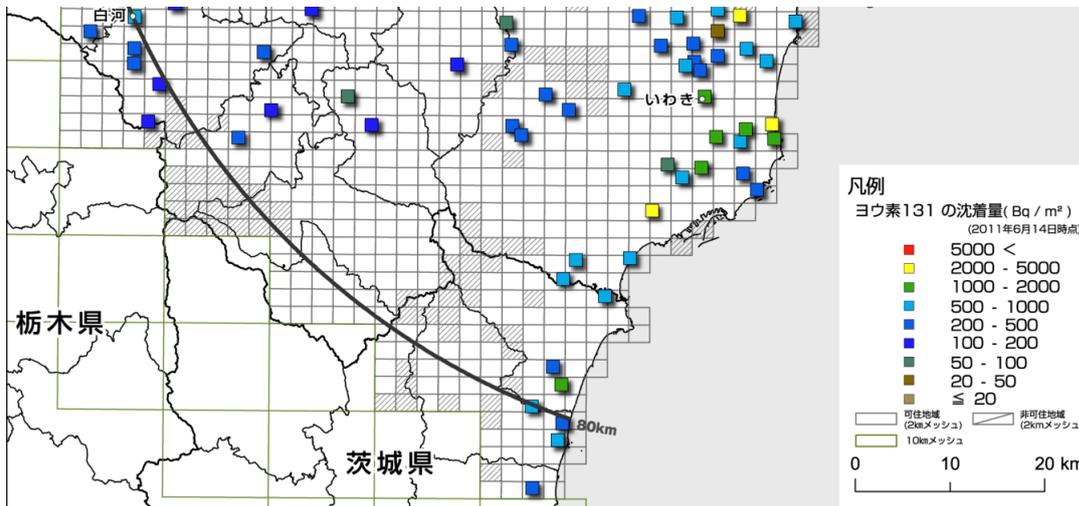
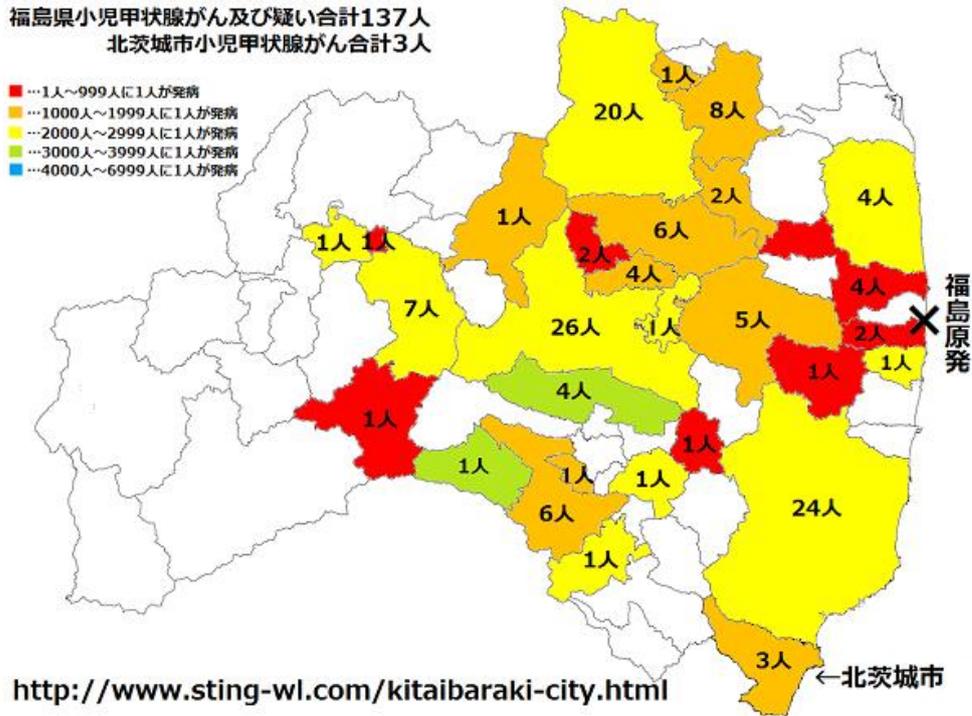


図 3 福島県小児甲状腺がん及び疑い 137 人の地域分布とヨウ素 129 の分析を通して得られたヨウ素 131 土壌濃度マップ(単位 Bq/m<sup>2</sup>)

茨城県でのヨウ素 131 の汚染状況は、隣接しているいわき市のそれと同等であります。いわき市では 24 人、北茨城市では 3 人の小児甲状腺がん及び疑いの子どもが診断確定。